

自立活動だより

令和7年11月19日発行
佐世保特別支援学校 自立活動部

11月に入り、学校行事も盛り上がりを見せてています。

さて、夏季休業中に外部専門家をお招きして実践力向上のための研修会を行いました。摂食（食べる機能）、立ち上がり、注意を集中させることなどについて、様々な分野の先生方から講演や助言をいただき、今後の指導実践の指針となりました。

今回は研修会の概要と、あたご中学部、わかくす中学部の自立活動の実践について紹介します。

I 専門家を招いての研修会

訪問看護リハビリステーションエール理学療法士

下釜 豊広 先生

椅子座位からの立ち上がりの指導についての研修でした。立ち上がりの目的やメカニズムについて講演していただき、実際の事例を基に課題や指導方法を考え、意見交換をしました。最後に、立ち上がりの基礎となる筋肉や筋力のトレーニング方法などを教えていただきました。



牟田歯科医師 牟田 尚子 先生

摂食機能の発達と指導方法についての研修でした。摂食機能の発達段階や、発達段階にあった食形態、そしゃく機能を向上させるための介助の仕方などについて、様々な形態食を準備していただき実際に食べて確認しながら教えていただきました。また、非常に役立つ食品やグッズ類についても教えていただき、8月26日に実施されたぼうさいフェスでも展示させていただきました。

子ども発達センター 作業療法士 馬場 徳子 先生

集中力に課題がある児童生徒への支援についての研修でした。感覚探求行動について、時には生活や学習の支障になることもあるが、支援者側がそれを否定的に考えないで、環境調整や代替行動で感覚を満たさせること、情報の整理が困難な場合には、それを補うために情報を可視化したり、簡潔に示したりすることなどの必要性について説明いただきました。また、「氷山モデル」を用いて、目に見える行動だけに捉われるのではなく、背景にある要因に迫ることの大切さについても教えていただきました。



2 中学部における自立活動の実践

あたご(知的障害教育部門) 中学部

授業に集中して参加できることを目標に、まずは短い時間、集中できるよう、活動を小分けにして課題に取り組みました。また、生徒が今すべきことが分かるように、活動を一つずつ提示して取り組んでいます。「することカード」にイラストカードを貼って示すことで情報が整理されて、手元に注意が向くようになってきました。↓



↑ 友達と協力して課題解決することを目標に、二人組になって紙コップが置いてある新聞紙を持って、落とさないように気を付けてゴールまで運ぶ学習をしました。お互いが相手のペースに合わせながら慎重に運ぶ姿が見られました。誰とペアになっても受け入れて取り組めました。

普段関わりが少なく慣れない人ともうまく関わることを目標に、他学部や他部門の職員室へ行き、面識のない先生方と関わる学習を行っています。初めは不安でしたが、繰り返し取り組むことで少しづつ知らない人と関わることに慣れ、話せるようになってきました。↓



わかくす(肢体不自由教育部門) 中学部



体幹に力を入れて姿勢を保持する学習。適切な力を入れて、視線を真っ直ぐに向けて姿勢を保持することができました。



手を使って姿勢変換をしたり、手で身体を支えながら自分の好きな物に触れたりする学習。左手で身体を支え、右手で好きな教材に触れることができました。



提示された教材に視線を向ける学習。頭部を保持しながら、提示されたタブレットPCに視線を向けて好きな動画を見ることができました。



声掛けに応じて段差を越えながら教師の待つ場所まで移動する学習。手すりをしっかりと握り、一つ一つの段差を丁寧に超えて先生のもとまで歩いていくことができました。

援助を受けながら目的の場所まで歩行する学習。視線を上に向けることや、上体を起こすこと、足を上げることを意識しながら10m歩くことができました。



今回は、佐世保特別支援学校における自立活動部が主催する研修会や、中学部の自立活動の実践について紹介しました。今後も校内、校外の先生方の実践的指導力につながるような研修の機会を設定し、児童生徒が学習や生活における困りごとの改善、克服につながるよう、指導、支援をしていきます。